

## 封戸地区まちづくり懇話会会議録

と き：平成30年10月31日（水）午後7時～午後8時45分

ところ：封戸小学校 体育館

出 席：

（市 側） 市長、総務部長、市民生活部長、福祉保健部長、経済部長、建設水道部長、  
教育次長、消防長

（事 務 局） 秘書広報課長、企画財政課長

（封戸地区） 34名

進 行（秘書広報課長）

1. 市長あいさつ
2. 出席者自己紹介
3. 前回（平成28年度）出された質問等に対するその後の対応状況報告（総務部長）
4. 市政報告（総務部長、教育次長、消防長）

総合計画など主要施策の進捗状況について「まちづくりレポート」に基づき説明を行う

5. 意見交換会

意見①

農業の6次産業など聞いたが、本地区はまちづくり自体何をしようかとはっきりしていない。老人会でしめ縄作りや食品加工とか多岐に活動しているところもあると聞いている。国道10号と国道213号の交差点付近に道の駅ができるのではないかと想定しているが、封戸地区からどのような農産物の出品等をだせばいいかアドバイスしてほしいので、アドテックが入っていた建物を市で借りて、専門的な知識を有している人が指導して、アドバイスしてくれるような体制を作ってくれればいいと思う。

回答

市では色々な農業の形態があります。安心院ではぶどう、院内ではゆずを中心としたもの、宇佐では米麦大豆、小ねぎや従来の米麦大豆の農業から儲かる農業ということで、集約型農業、野菜や施設栽培など、このような方向に行くには専門的な知識もいるし、農地の改善も必要になってきます。これらを総合的に進めていくために、封戸地区では小葱、大豆などを後押ししながら、地域にあった農作物を推進していけたらと取り組んでいる所です。封戸地区の皆さん方が作りたいというものがあれば農政課のほうで話していただきたいと思います。先ほど道の駅にどのような形で出荷できるのかということですが、運営自体の青写真ができていないので、今後、運営主体が決まってから示されてくると思いますのでその際にはご協力をお願いしたいと思います。

## 回答

道の駅についてご説明できる範囲で説明します。平成27年度より道路利用者に快適な休憩とサービスが提供できる国道10号の管理者である国土交通省と協議を重ねて昨年9月に国道沿線新規複合施設基本構想というのを策定しました。本年1月から国土交通省と合同で岩崎地区のガソリンスタンド付近になると思いますが、岩崎地区の方を対象とした地元説明会を行っています。国道10号の岩崎交差点の改修計画と合わせて地元関係機関と関係者と調整を行っていく予定です。今後の計画としては国土交通省と市で事業負担について協議を重ねてまいりたいと思います。基本計画については今月、国土交通省と基本計画の了承はいただいているところです。基本的には駐車場ができるのとトイレ、道路の情報コーナーが国から行っていただければと思います。一番知りたいのは農産物加工品とか肉などを販売する物産館だと思いますが、経済部長が答弁しましたが、まだどこにどのように作るか至っていません。中津の道の駅はJAがしていますので、今後研究していくことになると思います。来年度から測量や用地買収の交渉を始め平成34年度末までに供用開始できるよう整備をすすめていく方針です。窓口は土木課がしています。

## 意見②

防災災害区域の山のことですが、下の河川も同じなのですが、今年、大型の台風が来て相当水位があがったみたいです。御存じのとおり、池はモニターがあるわけでないし、河川は危険機区域を示す標識もなくこれについて避難命令を出される場合、どのようなプロセスでされるのかお聞きしたい。

## 回答

市ではため池については背後に住宅や道路があるとか公共施設があるとか、危険性があるため池には随時ハザードマップをつくるようにしています。そのハザードマップでは、万が一ため池が決壊した場合は、どれだけの範囲が何分後にここまで水につかるということを示して、それを地域のみなさん方でこの家はどのように避難したらいいとか避難経路を作ったり、どこを避難場所にしたらいいか準備しています。その家に該当するかどうかはわかりませんが、万が一の時にはハザードマップに従って皆さん方に避難等をしていただくこととなります。こういったタイミングで避難をお知らせするかがありますが、雨量の情報とかはネット等でいろんなところからはいつてくると思いますが、基本的にため池の維持管理はどちらの部署でしているか、全部市が維持管理しているものではないので、その辺のところについてはハザードマップに対象の池であればその辺も含めて地域のみなさんと協力していきたいと思います。

## 意見③

地区の区長が見回りをして危険だと察知すれば避難してくださいと連絡して自分たちの身を守るということですか。

## 回答

大雨が降って危険性があれば、たとえば地域で管理しているため池であれば地域の管理

主体のみなさんでどういう状況か確認していただいて、もし危ないということであれば、早めの避難をしていただきたいと思います。

#### 意見④

県管理の田笛川は、山間部の水の流れが速いです。地元では、どこまで水がきたら避難しなければならないか、水位計をつけてほしいということです。避難の目印を県に要請してほしいのが主なことではないかと思います。

実際、多く降った時、河川に危険水域を示す標識もないし、魚ヶ鼻池を見守るモニターもないし、どのように判断するのか。見回りに行ける状態ならいいのでしょうか。

今、堤体から3カ所水漏れをしているので、監視をどうしたらよいかということと、池まであがってくる道がアスファルトでなく石ころの林道です。それに、どう判断して住民の方に避難させるか分かりづらいので、遠隔操作できるような監視カメラをつけてもらえないか。

魚ヶ鼻池から、あらてというところから水が田笛川におりてくるところが土砂崩れをしており、県の方と打合せをして土砂と瓦礫を取り除いている。

#### 回答

魚ヶ鼻池については、今後の改修に向けては地元のみなさんに説明会を開催していく予定で、ご意見を伺うと聞いています。今すぐというわけではないのですが、全体的な改修に向けては平成32年度をめどに説明会を開催させていただきたいとの計画のようです。これを持って、どのような形で改修をしていくか検討するとのこと。豪雨の後に、耕地課と県の耕地課と地元の区長とため池の緊急点検を行いました。今、お伺いしたお話は改めて県の耕地課にも伝えて行きたいと思います。

河川の水位計についてですが、田笛川は県の管轄です。水位計については駅館川をはじめ市内に6カ所県が設置しており、瞬時にパソコンなどで状況がわかるように整備しています。九州北部豪雨を受けて国も増水時に河川の監視機能が発揮できるように危機管理型の設置の補助を国が行っており、県の河川であれば土木事務所なので、一度、土木課の職員も川の状況を確認したいと思います。

#### 意見⑤

防災行政無線のことで苅宇田地区の中間についているものは、横田地区は音声聞こえないので検討してもらえないか。外では風が吹いたら聞こえにくい。

#### 回答

防災無線については、宇佐市は設置して20年経っており、今アナログ方式では平成34年11月までしか使えないことになっており、今、防災無線のデジタル化整備に向けて9月に基本計画が出来上がったところです。平成32年度中には完成する計画で、電波の調査などしています。旧安心院、院内、宇佐でそれぞれ形式が違う中で運用をしており、統一するように計画しています。大雨の時、聞こえないと多くの方からいただいています。デジタル化になれば音もクリアになるし、今の技術であれば遠くまで聞こえるようになる

と思います。大雨になれば家の中では聞こえないというので、希望する方には若干負担金をいただくことになると思いますが、個別受信機をつけるだとか、スマートフォンのアプリをとっていただくとそこでも流すことができる、また、電話で流すことができないか、今そのようなことを検討しています。すべての方々が有事の際にきっちり情報がとれる環境を作って行きたいと思います。外でも色んなところで情報が取得できる環境を今準備しているところです。防災無線が聞きづらい場合はシールをお配りしていますので、整備されるまでは電話でお問い合わせください。

#### 意見⑥

国道213号の歩道は横田地区を越えたところに都甲産業があり、そこから桑原モータースの200mもないくらいですが、歩道がなく危険なので県に要望してほしい。

#### 回答

213号の歩道の設置の要望ですが、都甲産業から桑原モータースの約150mの間ということですが、一度現地を確認してから土木事務所に報告したいと思います。

#### 意見⑦

封戸小学校の児童がどんどん減って来ている。このままだと存続の危機になるのではないかと思う。小学校は地域のコミュニティであり、存続していつてほしいと思っている。存続するには子どもたちが入ってこないとならないので、若い人たちにどのように住む形を作るかということになってくる。宅地や住宅などを作れば若者が入ってくる環境が整うと思う。高田に接しており、高田の犬田と言う地区があるが新しく宅地ができ新しい家がどんどん建っている。高田小学校の近くも家が建っている。土地的にこことそん色ないので、宅地があれば新しく若い人が入ってくるのではないかと思う。若い人がよそから入ってきやすい環境をつくるのは地元の間人だが、基盤となる整備をしてくれればありがたい。

#### 回答

今、宇佐市は若者定住住宅を人口減少地域に造っています。定住促進住宅については、過去の8年間の児童数の減少をみまして、児童減少の比率の大きいところを優先にしており、公営住宅や民間の賃貸住宅のない校区を対象に建設を進めている所です。封戸地区については減少率が5本の指に入ると認識はしており、定住促進住宅の建設の計画に入っているのですが、他の地域を優先している状況です。その他の宅地開発ということになると市が介入しにくいところですが、住宅の新築以外にも空き家の改修のための助成や新婚さんが暮らす住宅への助成なども実施していますので、今後周知をしていきたいと思います。まちづくり協議会をこれからたちあげていただきたい地区は糸口、八幡、封戸地区です。封戸地区は来年度から協議会の立ち上げに向けてご協議をいただければと思います。まちづくり協議会が設立できると、そこに対して各種交付金やまちづくり協議会だからできる空き家対策などがでてくると思います。

#### 意見⑧

若者定住住宅はまちづくり協議会ができれば考えましょうということですか。そういうのではなくて、封戸地区には青森の市営住宅にしても刈宇田の市営住宅にしても、若者が入るでしょうか。ほとんど入りません。今、住居の募集はできない状況で、若者住宅はどうするのかということをお聞きしたのです。若者が定住できるような、補助事業なども答えていただけたらと思います。

#### 回答

青森の住宅は昭和42年頃に建てて相当時間が経過しており、60戸ありますが、現在10戸くらいの方が住んでいらっしゃいます。募集はしていない状況です。政策空き家ということで、住む人がいなくなったら最終的には取り壊す予定です。青森住宅は市の長寿命化計画の中で建替えの候補地の一つに挙げています。渚、青森、財前、とあるのですが、どこを一番にするかは決めておらず、今後の協議となってくると思います。封戸住宅もあります。そのようなところと青森の住宅を集約して、新しい住宅に建て替える、という考えを持って行っています。新規に住宅を建てるとするのは難しいので集約して建替えるということで、建設水道部サイドとしては考えています。担当は建築住宅課なので持ち帰って今日の話をしていただきます。

#### 意見⑨

青森、封戸住宅は古いです。別に、建替えてくれというのではないのです。この土地、住宅を利用して若者が定住促進できるようなものにしていただけたらいいなと思うので、今後検討して欲しい。（意見）

#### 意見⑩

今、封戸地区で来年度、放課後児童クラブの開設にむけて動いている。市の子育て支援課の支援をいただきながら動いているが、無事開設できるようにお願いします。

6項目目の所に「地域の実情に応じた最適な学校教育の在り方や学校規模と教育効果の在り方等について協議を行ってまいります」とある。保護者の中でも人数が少ない事について不安がある。小規模校だからできる教育について知恵をいただきながら保護者にもわかる、参加できるような形でしていただけたらと思う。

#### 回答

放課後児童クラブについては、子育て支援課から報告を受けています。さっそく要望等があがり、運営委員会が立ち上がったということで、先日協議を持たせていただきました。今後については、利用人数が10人というクラブ設置の要件がありますので、利用する子どもたちが10人集まるよう、地域や学校の方々のご協力をいただきたいと思いますし、長く存続できるようこちらも願っていますので色々な事にご協力をいただきたいと思います。

ご要望については学校教育課に伝えて行きたいと思います。毎年PTAの方から市の教育委員会へ要望をいただいております。社会教育の分野でも事業を行っていますので、色々のご協力させていただきたいと思います。

#### 意見⑪

災害等で避難した時、障がい特性を持った人たちに対して長期避難の場合、アレルギーに対する対応など宇佐市では出来ているのでしょうか。

#### 回答

福祉避難所は市内に26カ所あります。まずは一般の避難所についていただき、そこで過ごすことが難しい人には福祉避難所を開設するという事で、協定を結んでいる福祉施設などに受け入れてもらっているという体制をとっています。アレルギーについては明確な体制はとっていませんが、個々で体調や病気などに困っていることがあれば、避難所で相談していただいて対処するという事にしています。

#### 意見⑫

施設に入ることは簡単なのですが、施設を利用するというのは納得できます。糸口などは事業団などがあるので施設に近い人は入れます。しかし、宇佐市は広いので、どういふふうになったら対応、というのが見えないので質問しました。今後の災害を考えると長期になった場合にはアレルギーのある子ども、たとえばグルテンフリーなどのある子が出た場合どのように対応するのかと思います。今後の検討をお願いします。

#### 回答

確かに今のところはそのような方々へ配慮は検討までされていませんが、ご意見いただいたとおり今後研究して整備したいと思います。

#### 意見⑬

立石地区は山に囲まれて開いているのは北だけです。NHK大分放送のテレビが入らない。今入っているのは山口放送のNHKです。ローカル局は山口で大分のローカルが入らないのでいい考えがないのでしょうか。封戸小学校の屋上に中継のテレビ塔を八面山からうけ電波を送っていただけないのでしょうか。

#### 回答

難視聴地域はNHKの事業等で整備したところもありますが、難視聴地域となれば担当課がありますので、まずは状況を確認させていただきたいと思います。

#### 市長まとめ

貴重なご意見、ご提案をたくさんいただきありがとうございました。ため池と河川についてですが、今回、西日本豪雨、台風と今年も大きな自然災害に見舞われました。国も従来の災害で手薄だった中小河川をどうするかというのが喫緊の課題で、農水省と国土交通省から大分に来た時、直接、ため池、中小河川の整備について要望しました。ため池については、老朽したため池が広島のほうで決壊して児童が亡くなるということがあり、緊急点検を行いました。宇佐市はため池が303ありますが、そのため池の中で老朽化して壊

れそうだというものはないと報告を受けています。今回、話のあったため池はかなり大きなため池ということで、ハザードマップもすでにあるということです。管理者のいないため池は、雨が降ったらどういう状態がわからず壊れるということがあったので、ため池を廃止するか、ため池の堰堤を壊し、そこからあまり溜まらないようにして水を落としていく必要があります。今回のため池は改修するという事なので、水が溜まった時にオーバーフローするのを改修の時にみなさんの負担にならないように、うまく改修したらどうかと思います。5億円というかなり大きな改修になると思いますので、その辺もみなさんの要望を踏まえて改修したらいいと思います。次に国交省も緊急対策を受けて大きく3つ対策があります。一つは木が落ちて橋に溜まり、オーバーフローするというのが多く、従来の砂防ダムでなくてスリットダムといって、木を止めて水だけを流すというのを作っていくのが1つ目です。2つ目は中小河川の堤防をかさ上げするというものです。3つ目に水位計を付けていくというのですが、これは簡易水位計で従来の水位計、時間ごとに表が見れるようになるのではなく、データだけをとるというもので、緊急に全国で何百カ所つけようとなりました。宇佐市では1箇所追加でつけようと県土木でなっています。豪雨が短時間で大量に降ることが日常になってきましたので、そういった対策がさらに充実するようにお願いしました。

封戸小の関係ですが、封戸小に限らず、宇佐市全体的に児童が減っています。考え方としては今ある小学校は残す、地域の子どもは地域で育てるということで可能な限り人口減の中ですが学校を維持していくというスタンスで色んな施策に取り組んでいます。街づくり協議会もそうですし、若者定住住宅もそのような観点で取り組んでいます。若者定住住宅、既存の古い住宅を建て替えるのではなく、若い人が住める住宅をというお話がありましたので、いろんな対策を持ち帰って検討していきたいと思います。放課後児童クラブについてはようやく実現しそうなので、みなさんのご尽力に感謝したいと思います。

障害のある方の避難についてですが、考え方として、たとえば封戸地区でかなりの雨が降り、体育館に避難していただきとなると一時的にはここに入ることができます。しかしながら障害のある方はアレルギーのある方を含めて、長時間ここにいられません。避難所には担当者がいますので、障がいがあるということであれば福祉課と連絡をとり26カ所ある福祉避難所でどの避難所がその子に一番ふさわしい受け皿ができるような体制がとれるか検討していきたいと思います。障がいについては個人ごとに状況が異なりますので一番ふさわしいところを検討していきたいと思います。